

平成 22 年 8 月 26 日

金融商品専門委員会
ディスカッション・ポイント

- 金融商品専門委員会では、FASB が 5 月に公表した公開草案「デリバティブ及びヘッジ（Topic 815）並びに金融商品（Topic 825）：金融商品に関する会計処理、並びに、デリバティブ金融商品及びヘッジ活動に関する会計処理の改訂」（以下「FASB 公開草案」という。）に対するコメントを検討している。
- 金融商品専門委員会では、FASB 公開草案を大きく以下の 3 つの分野に分けて、コメント検討を進めている。
 - (1) 分類及び測定
 - (2) 減損
 - (3) ヘッジ会計

第 69 回専門委員会（8 月 10 日）では、(1)及び(2)のコメントの方向性を検討した。

- 本日の第 208 回企業会計基準委員会では、金融商品専門委員会の検討を受けて、コメントの大きな方向性を中心にご確認いただきたい。

- FASB 公開草案の質問に対する回答を網羅するのではなく、IASB と FASB の考え方に違いがあり、両者のコンバージェンスを進める観点で必要と思われる重要な項目についてコメントしていくことではどうか。
- 分類及び測定については、以下の質問に回答していくことではどうか。
 - （Q13）金融商品に対するデフォルトの測定属性は公正価値とすべきか。
 - （Q15）金融資産と金融負債について、事後の測定原則を同一にすべきか。
 - （Q16）事後の再分類を禁止することを支持するか。
 - （Q17）コア預金の再測定アプローチに同意するか。
 - （Q32）FV-NI の金融負債の自社の信用状態の変動をどのように表示すべきか。
- 減損については、以下の質問に回答していくことではどうか。
 - （Q38）すべての金額の回収を期待できない場合に、直ちに減損を認識すべきと考えるか。
 - （Q40）実績損失率算定のための特定の手法を規定すべきか。
 - （Q48）金利収益の認識は、信用損失の認識又は戻入れの影響を受けるべきと考えるか。

以上